



第19回 子ども学会議(学術集会)のお知らせ

テーマ

子ども期のしあわせを考える

～社会のなかでの子どものクオリティ・オブ・ライフ～



第19回子ども学会議は2023年9月23日(土)・24日(日)の両日、白百合女子大学(東京都調布市)にて開催されます。2023年4月1日には昨年制定された「こども基本法」が施行され、こども家庭庁がスタートします。日本の子どもたちにとって記念すべき2023年度にあたり、本学会でも“子どもの今”を概観して“子どものよりよい未来”を展望するための基礎的な学びや議論をしていきたいと考えています。

そこで、こども家庭庁への期待に関するシンポジウムや子どもを取り巻く現状のいくつかを取り上げて(離婚後養育に関する民法改正、貧困や虐待などの小児期体験の長期的影響性とそれを予防し緩和するレジリエンス要因をめぐる研究動向や支援の在り方など)、子どものQOLの観点から概観していきます。また、主催の白百合女子大学の人間総合学部(児童文化学科・発達心理学科・初等教育学科)の特徴を活かした市民公開講座(せんがわ劇場と連携した表現活動、乳児～児童までの親子を対象とした子育て支援や教育活動など)を開催し、子どものしあわせを創る大学での活動の学術的・教育的意義について討論します。会員によるポスター発表および研究交流の場であるラウンドテーブルも開催いたします。

【日時】2023年9月23日(土)・24日(日)

【会場】白百合女子大学(東京都調布市/京王線仙川駅から徒歩10分)

- 参加費：事前登録/学会員4,000円、一般5,000円
当日/学会員5,000円、一般6,000円、学生・院生1,000円、高校生以下無料
- 大会事務局：菅原ますみ・眞榮城和美・宮下孝広(白百合女子大学総合人間学部)

ポスター発表 募集!!

詳しくは日本子ども学会のHPをご覧ください

Program プログラム

詳細は、日本子ども学会のHPで!
<https://kodomogakkai.jp/>

第1日
9月23日
(土)

- 9:30~9:40 オープニングセッション(理事長挨拶・大会事務局よりお知らせ)
- 9:40~11:10 学会主催シンポジウム “Happiness for all children
:子どものしあわせが実現する社会・政策” 「こども家庭庁への期待」
榊原洋一(お茶の水女子大学名誉教授、日本子ども学会理事長)
清原慶子(杏林大学客員教授、内閣官房こども家庭庁設立準備室政策参与、
奥山千鶴子(NPO法人子育てひろば全国連絡協議会理事長)
- 11:15~11:45 小林登「子ども学」賞 第1回授賞式
- 11:45~12:30 昼休み
- 12:30~14:30 主催校企画シンポジウムI 「離婚後養育に関する法制度：子どもの最善の利益の実現に向けて」
安倍嘉人(弁護士、元東京高等裁判所長官)、未定(家庭問題情報センター相談支援員)
池田清貴(弁護士、東京家庭裁判所調停委員)、直原直光(富山大学専任講師)、小田切紀子(東京国際大学教授)
- 14:40~16:30 主催校企画シンポジウムII 「子ども期の逆境とレジリエンスを考える」
菅原ますみ(白百合女子大学教授)、舟橋敬一(埼玉県立小児医療センター部長)、小川淳子(チャイルドリサーチ・ネット)
御園生直美(白百合女子大学専任講師)、安藤智子(筑波大学教授)、榊原洋一(お茶の水女子大学名誉教授)
- 16:40~18:10 ポスターセッション(45分×2セッション)
- 18:20~19:30 懇親会、ポスター発表優秀賞 表彰式

第2日
9月24日
(日)

- 10:00~12:00 市民公開シンポジウム「子育て・子育て支援の今:親子のしあわせをつくる」
※りすぶらん・あんふぁん/せんがわ劇場 ※エデュテイメント大学/調布市 ※子ども大学たま
※上記の各実践現場を動画でつないで実践報告をします。
眞榮城和美(白百合女子大学准教授)、やたみほ(白百合女子大学准教授)、宮下孝広(白百合女子大学教授)
櫻井拓見(せんがわ劇場Drama Education Laboratory)、齊藤れいな(子ども大学たま副理事)
- 12:00~12:45 昼休み
- 12:45~13:30 総会
- 13:45~15:15 学会員によるラウンドテーブル(公募します)
- 15:25~15:50 クロージングセッション(理事長挨拶・主催校挨拶・次期大会準備委員会より挨拶)

この秋、小林 登「子ども学」賞の 第1回 受賞者が表彰されます！



小林 登先生

「子どもは未来である」。日本子ども学会の創設者である小林登先生は、ご専門である小児医学を超えて、幅広い分野に関心をもたれ、子どもの幸せに配慮した社会をつくることに尽力されてきました。日本子ども学会では、小林先生の志を次世代につなぐために、学会設立20周年の記念の年である本年、そのお名前を冠した学術賞を創設しました。今秋開催される子ども学会議(学術集会)で、第1回の受賞者を表彰します。

<賞の趣旨>

本賞は、自然科学や人文科学を包括し、子どもにかかわる学際的・環学的な学問領域において、子ども研究を深め、創発する業績、並びに、子どもの生活環境を豊かにする成育デザインの開発や、子どもの問題の解決に寄与する実践などに すぐれた業績を挙げた人々(個人あるいは団体)を顕彰するものです。そのことにより、人間科学に関する多領域の関係者で それらの成果を共有し、小林登先生が提唱された「子ども学」への社会的関心を高め、子どもの幸せに資する知識の深化や、社会システムの構築へとつなげてゆくことを目的とします。

●賞の内容

記念盾 賞金5万円

●授賞対象

- 1.公表された業績(論文、著作、実践報告等)
- 2.団体・個人による実践活動

※日本子ども学会の会員に限定するものではありません。

●推薦・審査方法

日本子ども学会の会員に対して候補者・団体の推薦を募ります。推薦者は、候補者・団体の情報および推薦理由を応募用紙に記入し、運営委員会に提出します。取りまとめられた各候補者・団体を、審査委員会の7名の審査委員が慎重かつ厳正に審査し、授賞者を理事会で決定します。

●今後の主なスケジュール

2023年3月末日	第1回 小林 登「子ども学」賞の候補者の受付締切
2023年4月～8月	審査・選考
2023年9月	受賞者の決定
2023年9月	授賞式(於:第19回子ども学会議)
2023年11月	第2回 小林 登「子ども学」賞の候補者推薦開始
2024年3月	候補者の受付締切

<問い合わせ先>

日本子ども学会 小林 登「子ども学」賞係

詳細は日本子ども学会のホームページをご覧ください(推薦を希望される会員の方は、推薦書をダウンロードください)。
なお、お問い合わせにはメールでご返答差し上げます。

<https://kodomogakkai.jp>

投稿論文部門 原稿募集について

投稿種別

投稿者は投稿時に論文の種別（下記参照）を選択し明示してください。なお、査読の過程で、論文内容に即して種別の変更をお勧めすることがあります。

● 研究論文

いずれかの研究領域の理論と方法を背景としつつ、子どもに関する学際的な問題について研究した成果をまとめたもの。

● 研究ノート

子どもをめぐる様々な事実や状況を検討して研究の課題を提示したり、子ども学として確立していくべき研究の方向性を示したりする萌芽的な研究や展望、提言など。

査読体制

- 論文の投稿は随時受け付けます。
- 投稿論文の採否は、編集委員会の議を経て依頼された査読者2名と編集委員（長）の合計3名による審査によって決定します。査読者のうち1名は原則として投稿された論文の研究領域（または最も近いと判断される領域）の研究者とし、もう1名は研究領域にこだわらずに選ばれます。
- 査読者および編集委員（長）は、投稿論文とそのもとになった研究をよりよいものにしていくという観点から、書面によってコメントします。特に修正のコメントがない場合を除き、コメントを付していったん投稿者に返却し、論文の修正をお願いします。
- 修正・再提出された論文に対して査読者および編集委員（長）は同様の手続きを行い、採択・不採択を合議によって決定します。
- 採択・不採択にかかわらず、コメントは再び投稿者に返却されますので、今後の研究に生かしてください。また不採択の場合でも、修正の上、次年度以降の号で再投稿することができます。以上の過程は投稿者・査読者ともに匿名で行います。なお、査読者については『チャイルド・サイエンス』に氏名の一覧を掲載します。また、採択された論文はその時点で編集集中の直近の号に収録します。
- 【著作権】本誌に掲載された論文の著作権は日本子ども学会に帰属しますので、掲載論文を無断で複製および転載することを禁じます。所属機関リポジトリ等への掲載を希望される場合は、編集委員会にご相談ください。

執筆要項

- ① 投稿者は、研究を進めるにあたって、倫理的問題に十分配慮することが求められます。
- ② 会員、非会員を問わず投稿できます。非会員の論文が採択された場合、日本子ども学会の年会費の振込みをもって学会誌に掲載いたします。
- ③ 「研究論文」は10000字以内かつ刷り上がり5ページ以内、「研究ノート」は8000字以内かつ刷り上がり4ページ以内とします。図表等もこの範囲に収めてください。
- ④ 原稿はワードプロセッサで作成し、投稿は電子ファイルを添付して、編集部宛にメールで送信してください。図表はPDFで、写真はjpegでも保存し、別途添付してください。
- ⑤ 本文とは別に表紙を作成してください。表紙には論文タイトル、筆頭著者・共同著者の氏名、所属および職名、連絡先（住所・電話・メールアドレス）、および「研究論文」「研究ノート」の別を明記します。表紙の様式は下記ホームページからダウンロードしてください。また、本文にはタイトルのみを明記し、氏名等は記入しないでください。本文には500字以内の和文要約、および5項目以内のキーワードを付けてください。
- ⑥ 図表の描き方、引用文献、注の付け方などはそれぞれの領域の原則に従います。それがない場合は、以下の諸点に注意して作成してください。
 - (1) 図表は別紙に書き、図1、表1のように通し番号を付けます。
 - (2) 表の題はその上部に、図等の題は下部に、説明文はいずれも下部に書くこととします。
 - (3) 引用文献は、論文の最後に著者名のアルファベット順に一括して挙げてください。
 - (4) 引用文献は、著者名・発行年・題目・発行所の順に記述します。
 - (5) 注は通し番号を付け、別紙に記載します。本文中にはそれに対する番号を付けてください。

詳細は、日本子ども学会ホームページへ
<https://kodomogakkai.jp/03/>

事務局だより

現在、日本子ども学会の理事会では、2019年にご逝去された小林登名誉理事長が日本子ども学会の設立に向けて、どのような思いをお持ちだったのか、振り返る作業をいたしております。今号の『チャイルド・サイエンスVol.25』でも、理事長対談やコロキウムなどの記事を通じて、日本子ども学会設立の意義を再考しています。

小林登「子ども学」賞に関しては、3月末までに会員の皆さまから候補者をご推薦いただき、審査委員会の審査がスタートする予定です。「子どもは未来である」という宣言にふさわしい活動をされている個人や団体の方たちとの出合いを期待しています。

学会が20年続く中で、メンバーも変わってきていますし、子どもの課題も多様化し、新型コロナのような予期せぬ出来事も起きています。アカデミズムを踏まえながら、かつ現実の子どもたち

の支援につながるような活動を今後も続けていければと思います。

2022年度の会員数は、2月現在で正会員575名、学生会員23名、賛助会員15団体です。昨年8月時点と比べると若干増えましたが、ほぼ変わらない数字で推移しています。

2023年度も引き続き、ご理解およびご協力をお願い申し上げます。

委員会だより

●財務委員会

2022年度は会費の未納率がやや多かったものの、学会誌の売上などで収入は予算通りとなりました。また、大会開催費用はお陰様で収支差がなく、支出では学会誌を年2号発行しても予算より支出を抑えることができ、全体としては繰越金が出る見込みです。

来年度は、小林登「子ども学」賞を新設することで、今までの繰越金と合わせ別会計とし、研究活動のさらなる拡大により会員数の増加を期待したいと思います。引き続き、皆様方の厚いご支援をお願いいたします。(小林美由紀)

●編集委員会

年2回発刊である学会誌『チャイルド・サイエンス』Vol.25では、小林登

「子ども学」賞、「子ども学」コロキウム、東海学院大学で開催された「学術集会」についてと盛り沢山の掲載内容となりました。

また、今年度も数多くの論文投稿があり、テーマも多様で、「子ども学」が学際的なテーマであること、多様な学会員が所属されていることを改めて考える機会となりました。今後もより充実すべく、会員の皆さまの投稿をお待ちしております。(佐藤朝美)

●研究開発委員会

2022年度も前年に引き続き、『小林登「子ども学」賞設立のためのコロキウム』を開催しました。テーマを「子ども学の可能性—生命科学との接点」とし、小林登先生が折に触れて振り返って語られるジェーン・グドール博士との交流の思い出もふまえ、右記のように4名の方に話題提供をいただき、参加者も交えてディスカッションの時間を設け

●第3回 小林登「子ども学」賞設立のためのコロキウム

2022年6月26日(日) 13:00~16:00

- ・林 美里 (中部学院大学教育学部准教授)
「大型類人猿の発達と子育て」
- ・島田将喜 (帝京科学大学准教授)
「動物の遊びと社会・進化」
- ・橋本和秀 (九州大学教育学部・人間環境学研究院 人間科学部門教授)
「『子どもへのまなざし』を相対化する
方法論としての実験発達心理学」
- ・仁木和久 (慶應義塾大学大学院社会学研究科訪問研究員)
「『子どもは未来である』とは？
—「学びと成長」と「社会・文化」との関係を探る」

ました。今回も活発な議論が交わされ、充実した時間になりました。

今後も、子ども学カフェやコロキウムを展開していく予定です。皆様のご協力、ご参加をお願いいたします。

(安藤寿康)

「日本子ども学会」は、会員を募集中です。

■ 詳しい情報は、日本子ども学会のホームページをご覧ください。(入会申込書もダウンロードできます)

日本子ども学会ホームページ <https://kodomogakkai.jp/>

■年会費

正会員 / 5,000円
学生会員 / 3,000円
賛助会員 / 30,000円

■入会・会員登録に関するお問い合わせ先

「日本子ども学会 事務局」

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター(担当:篠原)
Tel.03 (6824) 9370 Fax.03 (5227) 8631
E-mail: kodo-post@as.bunken.co.jp



日本子ども学会 役員・理事のご紹介

■ 理事長

榊原洋一（お茶の水女子大学名誉教授）

* 編集委員長兼務

■ 副理事長

安藤寿康（慶應義塾大学文学部教授）

* 研究・開発委員長兼務

太田美代（社団法人 環境政策対話研究所理事）

■ 事務局長

木下 真（福祉ジャーナリスト）

■ 常任理事

一色伸夫（こどもメディア研究所所長）

* 広報委員長兼務

小林美由紀（白梅学園大学子ども学部教授、小児科医）

* 財務委員長兼務

沢井佳子（チャイルド・ラボ所長、日本こども成育協会理事）

菅原ますみ（白百合女子大学人間総合学部教授、お茶の水女子大学名誉教授）

所 真里子（保育の安全研究・教育センター）

* 事務局長補佐兼務

仁木和久（慶應義塾大学訪問研究員、脳認知科学研究所総括研究員）

* 会員・規約委員長兼務

宮下孝広（白百合女子大学人間総合学部教授）

劉 愛萍（チャイルド・リサーチ・ネット主任研究員）

渡辺富夫（岡山県立大学情報工学部特任教授）

■ 理事

朝倉民枝（株式会社グッド・グリーン代表取締役）

浅田 稔（大阪国際工科専門職大学副学長、大阪大学先導的学際研究機構特任教授、大阪大学名誉教授）

安倍嘉人（弁護士、公益社団法人家庭問題情報センター理事長）

石渡正志（甲南女子大学人間科学部教授）

井上高光（さつき幼稚園理事長）

内田伸子（環太平洋大学教授、お茶の水女子大学名誉教授）

内田ふみ子（子ども大学よこはま事務局）

遠藤利彦（東京大学大学院教育学研究科教授）

大橋節子（学校法人 創志学園副理事長、環太平洋大学学長）

長田有子（NPO法人 チャイルド・ケアリング・アソシエーション理事）

河合優年（武庫川女子大学教授）

桐山伸也（静岡大学学術院情報学領域教授）

坂上浩子（子どもコンテンツ制作・研究者）

酒井 厚（東京都立大学人文社会学部教授）

佐倉 統（東京大学大学院情報学環教授）

佐々木玲子（慶應義塾大学体育研究所教授）

佐藤朝美（愛知淑徳大学人間情報学部教授）

島田将喜（帝京科学大学生命環境学部アニマルサイエンス学科准教授）

瀬尾知子（秋田大学教育文化学部こども発達・特別支援講座准教授）

竹下秀子（追手門学院大学心理学部教授）

高塩純一（びわこ学園医療福祉センター草津 理学療法士）

竹林洋一（みんなの認知症情報学会理事長、静岡大学名誉教授）

田部絢子（金沢大学人間社会研究域学校教育系准教授）

塘 利枝子（同志社女子大学現代社会学部教授）

中井昭夫（武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科・子ども発達科学研究センター教授）

服部 弘（一般社団法人 OGU 総合研究所副代表）

林 美里（中部学院大学教育学部准教授、日本モンキーセンター学術部長）

原島 博（東京大学名誉教授）

開 一夫（東京大学大学院総合文化研究科および情報学環教授）

福澤利江子（筑波大学医学医療系助教）

眞榮城和美（白百合女子大学人間総合学部准教授）

■ 監事

森脇浩一（埼玉医科大学総合医療センター小児科教授）

■ 顧問

箕浦康子（お茶の水女子大学名誉教授）

〈50音順、2022年9月30日現在〉

日本子ども学会の情報発信



学術集会についての情報や学会誌への投稿は、こちらから。

最新情報は、こちらでcheck!

Home page

日本子ども学会公式ホームページ
<https://kodomogakkai.jp/>



学術集会や「子ども学カフェ」のお知らせ、投稿論文の募集情報、学会誌「チャイルド・サイエンス」のバックナンバーの内容などを公開しています。

「子ども学カフェ」の講演など、読み物もいろいろ

Facebook

日本子ども学会Facebookグループ

<https://www.facebook.com/groups/nihonkodomogakkai/>



会員だけでなく、誰でも参加できる公開のグループです。子どもをキーワードに、専門や立場にとらわれず、自由な交流を楽しむグループにしていきたいと思っています。



チャイルド・サイエンス Vol.25

発行日：2023年3月31日

発行：日本子ども学会
<https://kodomogakkai.jp/>

編集：日本子ども学会 編集委員会
 (楠原洋一、佐藤朝美、朝倉民枝、石渡正志、梅永雄二、
 太田美代、大橋節子、北野幸子、木下 真、酒井 厚、菅原ますみ、
 瀬尾知子、眞榮城和美、宮下孝広、渡辺富夫)

編集協力：木下編集事務所、株式会社インタレスト

デザイン：シモサコグラフィック

印刷・製本：株式会社総北海

ISBN978-4-909336-11-8



子ども学、アジア全域へ

CRNアジア子ども学研究ネットワーク (CRNA) 活動中

近年、急速な発展を遂げているアジア。
 子どもを取り巻く環境も日々変化し、様々な問題を抱えています。
 CRNでは、アジアの子どもを取り巻く諸問題の解決の糸口を探るために
 「CRNアジア子ども学研究ネットワーク」を展開し、
 アジア各国を代表する子ども研究の専門家のネットワークを構築しています。

<https://www.crn.or.jp/>

※これまでの東アジアでの活動も、こちらからご確認いただけます。



子どもに関心をおもちの方ならどなたでもアクセスしていただきたい。CRNは日本国内のみならず、グローバルな視点で子どものことを研究していくための国際的な「場 (arena)」を提供してゆきたいと思えます。是非有効にご活用ください。

CRN所長 神原洋一

子どもたちの笑顔のために、学際的な視点から活動しています

子どもは未来である



チャイルド・リサーチ・ネット
「子ども学」研究所



f <https://www.facebook.com/crn.jp>
 t https://twitter.com/crn_jp

“子ども”に関心をおもちの方は、今すぐ

CRN

検索